

第39回応用言語学講座公開講演会

後援：国際言語文化研究科教育研究プロジェクト経費

(「言語学・応用言語学研究者養成のための講演会・チュートリアル実施プロジェクト」)

思考の言語相対性と普遍性

講師：今井むつみ先生 (慶應義塾大学)

講演内容

我々の知覚や思考はどこまで言語に依存しているのか。この一般にサピア・ウォーフ仮説と呼ばれる問題は長い間論争が続けられているが、はっきりした結論は得られていない。本講演では可算・不可算文法、助数詞文法、性文法という、名詞を類別する3つの文法が話者の思考にどのような形で影響を与えているのか (あるいは与えないのか) を異言語話者比較実験のデータから検討し、知覚・思考のどのような側面が言語普遍的で、どのような側面が言語の影響を受けやすいのかを考察する。

- 日時： 2016年2月8日 (月) 午後4時30分～6時00分
- 場所： 名古屋大学 文系総合館7階カンファレンスホール
<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/>
- 交通案内： 地下鉄名城線「名古屋大学駅」①番出口徒歩数分

入場無料・事前申し込み不要

お問い合わせ：秋田喜美 <akita@lang.nagoya-u.ac.jp>